

おおさか

きなびやの



大阪桐蔭中学校高校
(大東市中垣内3)に
は、ロケットの打ち上
げ実験などにチャレン
ジできるロケット研究
部がある。中学1年〜
高校1年の男女約30人
が、未来の技術者を夢
見ながら、ロケットに
載せる模擬衛星の開発
に取り組んでいる。

模擬衛星はロケット
に搭載して打ち上げ、
上空で分離。パラシュ
ートを開いて落ちてく
る間に航空写真の撮影
などをさせる。指令を
出すのは、衛星に搭載
したコンピュータ
だ。部員だけでプログ
ラミングを考えるのは
難しいため、小型ロケ
ットの開発などに取り
組むベンチャー企業
「創機システムズ」(東
大阪市)の岡本浩和さ
ん(32)らに手伝ってもら
っている。部員たち
は、全国の高校生が空
き缶サイズの模擬衛星
の技術力を競う「缶サ

ロケット研究部



岡本浩和さん(左)に手伝ってもらいながら、
模擬衛星を搭載するコンピュータのプログラ
ミングに取り組む大阪桐蔭中学校高校のロケッ
ト研究部のメンバーたち
|| 東大阪市で

大阪桐蔭中学校高校

ット甲子園」の地方大
会に出場したり、打ち
上げ実験をしたりして
成果を確かめている。
8月下旬にはフラン
スで開催されたロケッ
トの打ち上げ大会に出
場し、落下中の気温や
気圧、衛星の傾き具合
などを測定しようと試
みた。高校1年で部長
を務める安井隆登さん
(16)は「思った通りに
動いてくれるとすごく
うれしい。将来はもの
づくりに関わる仕事に

模擬衛星に夢のせて

就きたい」と話す。
創部9年目。缶サッ
ト甲子園の地方大会は
突破できていないが、
近年は文化祭での発表
を見てロケット研究部
に憧れ、受験してくる
生徒もいるという。創
部から指導に当たって
きた水野健太郎・客員
講師(40)は「最初は同
好会に近かったが、他
校と交流する中で子ど
もたちの目の色が変わ
ってきた。模擬衛星づ
くりだけでなく、ロケ
ット本体の製作など高
いレベルの挑戦をさせ
ていきたい」と話して
いる。【大久保昂】